

Title	「教会における人間関係」報告(2014 牧会サマーセミナー)
Author(s)	村上, 純子
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.2, 2015.1 :17-17
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5258
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2014 牧会サマーセミナー 「教会における人間関係」報告

2013年9月8日（月）、牧会サマーセミナーが開催された。牧会サマーセミナーとは、対象者を牧会者（牧師、伝道師など）に限定して行われる一日プログラムで、牧会者が牧会上の課題を共有し、励まし合うことを目的に持たれているセミナーである。回を重ねるごとに参加者も増え、中には二度三度と参加して下さる方々もいらした。

今回のテーマは「教会における人間関係」であった。最初に参加者の簡単な自己紹介から始まり、それぞれがどのような期待をもってこのセミナーに参加されているのかをうかがうことができた。短い時間ながら、それぞれいろいろな思いをもってこの場にいらしているのだということがよくわかった。

続いて2人の発表者からの話題提供があった。一人目は藤掛明先生（聖学院大学人間福祉学科こども心理学科准教授）で、「教会とパーソナリティ障害」というタイトルでお話があった。パーソナリティ障害は性格の偏りが著しく、社会生活に支障をきたす場合も多い。藤掛先生はそのような障害を持つ人の特性や、その方々が教会の中で起こしやすいトラブルなどを、実際例を交えながら話された。参加者はうなずきながら、熱心にメモを取っておられる方が多く、多くの教会で実はパーソナリティ障害を持っている方々の行動に困っている現状があるのだということを垣間見たような気がした。

二人目の発表者は堀肇先生（聖学院大学大学院非常勤講師）で、「教会における人間関係への対応」というタイトルでお話があった。堀先生は、人は生まれ育った環境、親の養育態度によって、身につける環境への適応タイプが異なること、それによってその人とのかかわり方において注意すべきポイントが異なることなどを話された。おそらくどの牧会者も、直感的にあるいは実践的にはわかっていたことが、理論立てて示されたことで納得され、今後の人間関係の対応にすぐに役立つ知識が

得られたのではないかと思う。そのあと設けられたお二人の先生に対する質疑応答の時間も、時間が足りなくなるほど、参加者には意義深い講義だった。

お昼の時間にはお弁当が配られ、参加者同士のよい交流の場ともなっていたようである。

午後は4、5人の小グループに分かれ、グループごとにディスカッションを行った。このグループ・ディスカッションは牧会サマーセミナーの目玉である。これは、講義を聞いて終わりではなく、参加者たちが自分たちの思いや直面している困難などをお互いに分かち合える場を提供することに意味があると考え、行っているのである。この場で話されることは秘密厳守であり、誰かの発言を否定や批判などはしないという約束のもと行われる。個々の状況は違うが、先輩牧会者の知恵をいただいたり、若い牧会者の言葉に新しい発見をしたりと、お互いから学び合うことも多いようである。

その後、再度全体で集まり、各自が今日学んだことや感じたことなどを振り返るひとときと質疑応答の時間も持たれた。朝の9時半から午後16時まで長い一日ではあったが、次回もまた参加したいという参加者の声に、セミナーを開くことができよかったという思いに包まれた。



左上：藤掛准教授、中央上：窪寺教授、右上：堀先生

（文責：村上純子 [むらかみ・じゅんこ] 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）